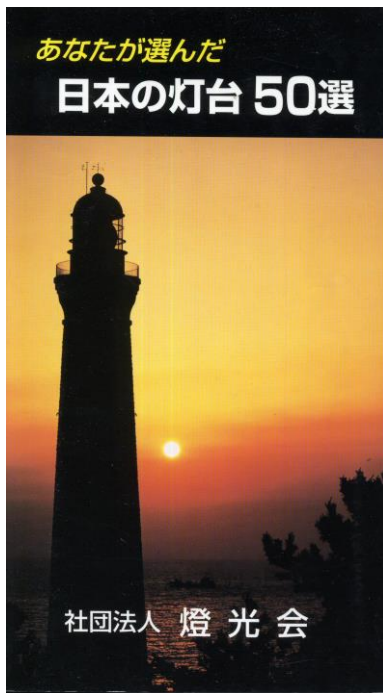




ご近所トマソン隊



今回のテーマは「灯台」です。何故、灯台なのか、Cacco の探訪記をご参照ください。灯台の歴史は大変古いと思うのですが、室町時代から篝火を焚いて合図にしたというのを、なにか読んだ記憶があります。これも灯台ではないかなあ。燈光会の「あなたが選んだ日本の灯台 50 選」（100 選もある）には、明治時代以降に建てられた灯台が紹介されています。灯台好きの方には、この書は堪らないでしょう。なんと、「灯台」という雑誌もあった。

すげえ、すげえ。日本にこんなに灯台のファンがいるのか。あれ、出版社は「第三文明社」になっている。創価学会？日蓮は灯台にも造詣が深かったのか。すげえぞ！

数少ない灯台の記録の中から（つい最近のことですから、灯台に目覚めたの

は！）幾つかお見せします。本当はトマソン隊でやるほどネタが無いのです！

能取岬、納沙布岬は厳寒の 2 月に行きました。ものすごい厚着だったものですから、Cacco 隊員ともども根室の人に笑われました。そんな厚着の人は北海道でもいません。行った中では、これが一番遠い灯台です。



呉れるんだよね！それっ！



能取岬の灯台



納沙布岬の灯台



観音崎灯台

さて、Cacco 隊員が灯台に興味を持ったのは、ご近所トマソン隊に入隊間近のこと。グリコ編集長と三浦岬の戦争遺跡を探訪した際からになります。

うさお隊員、ライ隊員は、それに引っ張られるように、お供をしていくようになるのです。横浜は港の街、神奈川は岬の県ですので、実は灯台は子供（子犬）の時から、あまり珍しいものではなく、思い入れもありませんでした。

それに灯台に行っても、余り内に入れてもらえないし、その周りをぐるぐる回って見るだけなので、時間を持って余してしまうからかな。

さて、観音崎灯台は 50 選の中に選ばれている美しい灯台です。この灯台は、東京湾の防衛のために、江戸幕府が建設を進め、明治新政府が引き継いで建設に着手しました。設計者は、横須賀製鉄所のフランス人フランソア・レオンス・ヴェルニーです。この人は城ヶ島灯台も作りまし

た。明治元年 9 月 17 日に着工し、同年 12 月 29 日に完成、翌明治 2 年 1 月 1 日に日本最初の洋式灯台として点灯します。

灯台はレンガ造四角形白塗りで、灯塔の高さは地上から 12.12 メートルあります。

灯台守(今や灯台はほとんど自動化されて

いるため死語に近い)は、万蔵、安次郎 2 人の灯明番だったそうです。

この辺りには、他に城ヶ島灯台や剣崎灯台があります。剣崎灯台は今回の取材で行きましたが、城ヶ島灯台は余力がなく、また今度ね。

さて、剣崎灯台は、ちょっと寸の足りない灯台ですが、まあまあ威圧感があります。間近に見ますとちょいとしょぼいですが、ご愛嬌でしょう。でも、観音崎灯台、城ヶ島灯台に続いて、日本で 3 番目にできたのがこの剣崎灯台ですので、所謂日本の近世の灯台の歴史は、三浦半島から始まったといえますね。

そうやって考えると、凄い、凄い。小高い丘を上り下りして、石畳の小道を登り切った所に灯台が



観音崎灯台

上にいるのはグリコ編集長



剣崎灯台

探検に赴く凸凹隊員

見えてきます。完成された年は 1871（明治4）年、高さ 16.9m（地上～頭部）、41.1m（水面～灯火）、光度 520000 カンテラとあります。

葉山の御用邸が近いこともあり、皇太后のご来臨の際の碑が建っています。（細長い将棋の駒みたいな格好をしています）

この灯台には、子供の灯台があり、間口港



間口港灯台



鶯の営巣



対面する丘には、電波塔が建っています。電波塔は今はとっても近代的ですが、大東亜戦争の時にはもっと違った威容をしていたと思います。さてこの電波塔の脇には、戦時中のもと思われるベトン(コンクリートのこと



何らかの戦争遺跡か？グリコ編集長の解明を待て！



剣崎灯台

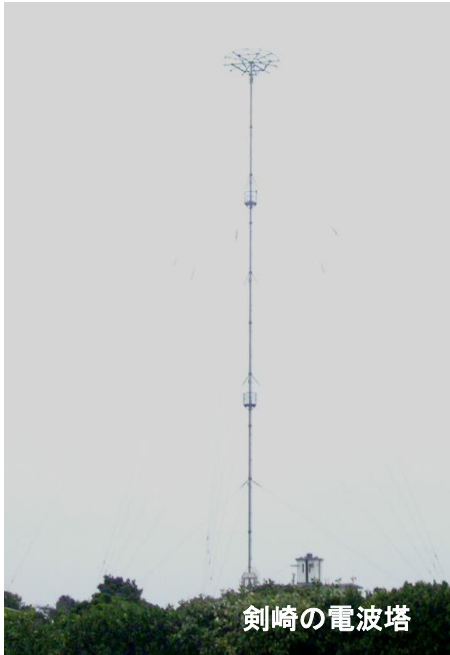
の突先にあるものです。ここに、鶯が営巣しているようで、ご覧のようにここでテリトリーの番をしています。本当の巣は手前の岬の森にあるのでしょうか。猛禽類が人間と共住しているというのは、あまり例が無いらしく、欧米では驚嘆の的です。



剣崎灯台

ライ隊員はこの段差が上れない。行く手には、更なる危機が待っていた・・・

ね!)の建屋があります。灯台のすぐ近くの松輪には、畑の中に高射砲の砲台跡があり、これも何らかの戦争遺跡だと思われます。



剣崎の電波塔

さてここには、なんと貞子の井戸が存在しました。ここです。昼、尚暗き崖の傾斜地に突如として現れた件の井戸。そこには封印と魔除けの言葉が掲げられていました。魔除けの言葉は以下の如し。

「矢の根井戸 源為義の第八子、源為朝は幼少より傍名無人で十三歳のとき、父為義により九州へ追放されたほどですが、その九州でも武威を大いに発揮、土地の豪族を征服して、みづから鎮西八郎為朝と称して勢力を振るいました。しかし、その為朝も「保元の乱」では、藤原頼長の判断力の欠如から作戦の策を用いられず、これがもとで敗退、ついに平清盛の武将平家貞の捕えるところとなりました。ただし、その武勇を惜しむ声により、死一等を減じられて伊豆大島に流罪となりました。

きのうの威とはうって変ったきょうの悲運、為朝は流人の島から「わが弓勢昔に変わらずや」と、鎌倉に向かって矢を放ち、せめてものうさ晴らしをしたと伝えられています。その矢が誤ってここに落ち、その矢の立ったこの地点から泉がこんこんと湧きでて、井戸となったので「矢の根井戸」と呼ばれるようになったと伝えられています。三浦市 ああ、恐ろしいものを見てしまった。

さて、意気地の無いライ隊員の勇姿をお見せしましょ



貞子の井戸

う。ご近所トマソン隊員なんでしょ！勇気を見せてください。ライ隊員。

下り坂では、完全に腰の引けてしまっているライ隊員。足が前に進みません。

切り立った崖の小道では、うさお隊員に SOS！抱っこしてもらっての南側岩礁の踏破です。



その一歩が前に出ないライ隊員



後で調べると、これは戦争遺跡とも、漁具の格納場所とも言われている。





結局、間違いでしたけどね。

五浦海岸、灯台を起点とする周遊の公園は、岡倉天心の公園、美術館に続きます。灯台入口の駐車場に止めて、すぐに公園のほうに歩を進めました。ほんのちよっと、後ろを振り返るとそこに、大津灯台が聳えていたのに、「どこじゃろう、灯台は・・・」と反対の方向にトマソン隊は進む。

Cacco 隊員の探訪記に詳しいが、大津・五浦海岸は、岡倉天心や野口雨情などのゆかりの地として有名です。ちなみに岡倉天心は、横浜にも多くの足跡を残しています。

大津岬灯台は北茨城の北端に近いところに位置します。この日は台風の余波で、海のうねりは相当なもので、砕ける波頭、白き飛沫。ここが S 君の撮影地だと、おっちょこちょいの何方かは、大はしゃぎでした。



断崖の上にある遊歩道を巡ること、数分でチャペルが見えてきた。鬱蒼とした森の中で急に異質なものを見ると、「これは一体なにぬねの！」って言いたくなっちゃうよね。こんな所で式を挙げる人は本当に居るのか？しかも、そのチャペルのすぐ脇に忠犬ジョンの碑がある。

その碑に曰く。

「犬ジョンは資性伶俐にして能く番犬の任を果たし、為に主家をしてその任に忠なる為にうかがうべき隙なきを憎みてか一夜農薬入りの食を与えし人あり。ジョンはその服毒の激痛に耐え、夜の明くるるを待つて伶俐にも己れの死期迫れるを知り、未だ臥床中の主人の床に近づき告別の意を傳いて息断いたり。

主人その死を憐れみ僧を招き厚く回向し風光絶景の此の地に懇ろに之を葬る。爾来、今様、花咲翁のそれの如く主家の幸運これより至る。之も忠犬の余念の存する為ならんと厚く讃ふ。以来當地に杖を曳し人、名犬の死を憐れみこの墓地に詣する者多し。

忠犬ジョンの勇姿に接する人には忠犬の守護あり、福運必ずその身に及ばん。意ある人迷う事なく来り詣でその加護を受けられん事を。 主人敬白」

しかし、忠犬の忠犬らしき逸話は無いのか？唯の犬ジャン！



鹿島の荒海



鹿島のブイのような灯台



灯台のようなもの

さっぱりで
すわ・・・

12年4月1日に点灯されたもので、比較的新しい灯台です。爪木崎は野スイセンの群生でも有名で、岡の上によっきと立つ灯台は、趣があります。

もうひとつ有名なものがあります。海岸線には規則正しい五角形の柱状の石が並ぶ柱状節理を見ることが出来ます。江戸時代は石材として切り出され「俵石」と呼ばれていたそうです。

鹿島は鹿島灘と謂われるように、波の荒いところだ。毎年何人かは海に持って行かれるらしい。突堤にバリケードがあるが、とてもあそこまで行く気にならないぞ。

その突堤にブイのような灯台もどきがありました。ここは工業団地で有名で、海越に多くの巨大な煙突が林立しており、そそられました。「煙突」は前回やっちゃたじゃないかと自分を抑えます。どうどう。

灯台もどきは他にもあり、石油か天然ガスの海上からの搬送栈橋の陸側に建ててあり、筒が一本、立っているようなものです。

なんだか機能一点張りのさっぱりしたものでしたが、図体が大きいので、それなりにスケール感がありました。

Cacco 隊員が、伊豆の爪木崎に行きたいと言いました。言い出したら聞きません。

伊豆半島の南の端、爪木崎の先端に白い灯台があります。この灯台は、航行の難所の伊豆半島沖から相模湾での安全確保のために、昭和



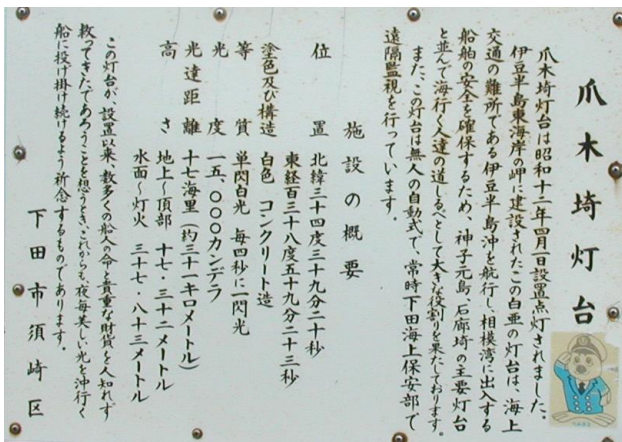
爪木崎灯台



爪木崎灯台。道は完備されている。

この爪木崎灯台も断崖絶壁のところ建っており、足元から眼を離すと転落して 30 m 位下の岩場に落ちて行ってしまいますよ。下の写真の撮影位置は、正にその落ちるぞって処で撮りました。広角側のレンズは持っていませんので、見上げた構図で 3 枚撮り合成したものです。

あおり補正をし、色調を整え、寸法を合わせ、苦勞しましたが、窓が三つ見える構図はこの位置からでないと思えません。

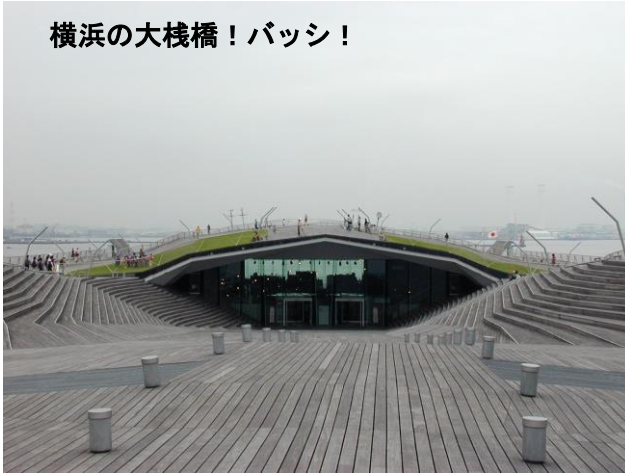


山形に以前行った時の、DOKUGAKU 表紙にもなった鶴岡市は湯の浜の灯台。

灯台というよりは、ブイに近い補助灯台だ。しかし、S 君は灯台が好きだ。というよりは、塔状の建造物が好きだ。灯台が 2 題、目黒の塵芥処理場の煙突、鹿島の燃料補給用の海上に突き出た 1 km に及ぶ突堤。これって、フロイトやユングが知ったら、どんな判定を下すんだろうか。



横浜の大栈橋！バッシ！



行ってみました。

えっ、これが大栈橋？！

大栈橋の改修工事が進んでいたことは知っていましたが、こんなに変わるとは思っていませんでした。出入国管理事務所はあるし、待合室はあるし、まるで空港のようだ。屋上の遊歩道などはアールヌーボーのようだ。



マリントワーと氷川丸

取り敢えず探してみても、判らないので、反対側の黒埠頭に回ってみました。あっ、あるじゃない。ベイブリッジに隠れて見えなくなっていました。この「赤灯台」、「白灯台」は昔からあったものをレトロ・フィットしたものですよ。



最後にご近所トマソン隊として、横浜港の「赤灯台」、「白灯台」に言及しなければならぬだろう。地元だし。「赤灯台」、「白灯台」は、横浜港の出船、入船をコントロールするずいぶん昔からある灯台だ。これを見るためには、大栈橋に行かねばならぬだろう。



赤灯台 でもこれは違いました！

ともあれ眺めてみたが、「赤灯台」は見えるが「白灯台」は見えない。「ある」、「なし」クイズじゃないんだから、変だなあ？

そういえば、マリントワーも赤と緑の回転灯を備えているこれも立派な灯台だよな。

鶴見のマンションに住んでいた頃は、窓からマリントワー、ベイブリッジ、翼橋が見えたものです。今考えると、ものすごい景観のよいところに暮らしていたのかも。



「赤灯台」、「白灯台」

